



春日新50年プランによるまちづくり

Vol. 14

魅力ある春日の未来図を実現するため、(A)市民活動拠点の整備、(B)都市機能の向上推進、(C)歴史自然景観の整備の3つの視点(プラン)による都市づくりを推進していきます。



▲春日新50年プラン



「市産材」の活用に向けて 伐採した樹木の加工を進めています

市中央部エリア(ふれあい文化センターなどがある大谷地区周辺)に、市内の福祉施設などを移転集約した(仮称)地域共生交流施設の建設を進めています。

建設予定地の旧大谷ふれあい公園では、建設前の文化財調査に向けて、令和6年度に樹木を伐採しました。伐採した樹木のうち、木の状態が家具製作などに適したもの(約100本)を「市産材」として選別しました。木材として使用できる状態にするため、現在、大川市にある製材所で、乾燥などの工程を進めています。

今後のスケジュール(予定)

- ▷令和7・8年度 乾燥、製材
- ▷令和9・10年度 ワークショップ・家具製作

木の種類 アラカシ、カクレミノ、クスノキ、クヌギ、ソメイヨシノ、ナギノキ、ヤマモモなど

活用予定

- ▷新しい施設で使うベンチなどの家具の製作
- ▷緑の循環などへの理解を深めるため、小物を作るワークショップなどの開催



▲市産材を使用した家具のイメージ

作業の進行状況

①幹の太さなどで選別した後、伐採しました。



②屋外で自然乾燥します。
※番号を付け、どの木を何に使うかを追跡できるようにしています。



③木材として使用するサイズにカット(粗製材)し、乾燥を続けています。



○地球温暖化対策としての市産材の活用

木は、二酸化炭素を吸収して成長します。伐採した木を焼却などで処分すると、木の中に蓄えられた炭素が大気中に放出されてしまいます。木材として加工することで、炭素を木の中に留めておくことができます。

また、若く成長段階にある木は、古い木よりも多くの二酸化炭素を吸収します。新たな施設の横には、誰もが緑に親しむことができる広場を設け、新しい(若い)木を植えます。

こうした取り組みにより、地球温暖化対策と緑の循環を進めています。

問い合わせ先 経営企画課企画担当 ☎(584)1133 ☎(584)1145 ☎1014972

